

# てん菜栽培における鶏ふんペレットを活用した施肥コスト削減

てん菜減肥研究会 代表 木下 匠

## 調査研究の目的

近年の化学肥料コストの上昇により、所得率の低下が問題となっている。そこで、安価な有機質肥料を活用することで、施肥コストの削減を図る。

## 調査研究の内容

- ・ 供試作物：てん菜(移植)、品種：カーベ2K314
- ・ 栽培管理：は種・・・R6:3/15～3/16 R7:3/14～16  
 移植・・・R6:4/27～5/7 R7:5/8～13  
 収穫・・・R6:10/20～11/10、R7:10/25～11/5
- ・ R6年度とR7年度との比較（肥料費、収量、収益性）



写真1 てんさい生育状況 (R7/8/18)

表1 肥培管理(施肥銘柄・量・費用)

年度	施肥銘柄	施肥量 (kg/10a)	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO	費用 (円/10a)
R6	特配ビート用	170	17.8	27.6	15.2	8.5	32,207
R7	特配ビート用	140	14.6	22.7	12.5	7.0	26,523
	鶏糞ペレット	55	1.7	1.7	1.7	-	2,816
合計			16.3	24.3	14.2	7.0	29,339

昨年比  
約10%削減!

※肥料価格はR6、R7肥料年度における早取り価格

R6-7差引 2,868

## 結果

- R6年度と比べて、R7年度では施肥コストを削減でき、糖量は同等となった。その結果、所得はやや向上した(図1、表2)。

表2 収益性

年度	糖量 (kg/10a)	売上 (円/10a)	肥料代 (円/10a)	粗収入 (円/10a)	差額 (円/10a)
R6	1,216	130,660	32,207	98,454	-
R7	1,216	129,809	29,083	100,470	2,017

※売上 = 品代 + 数量払交付額

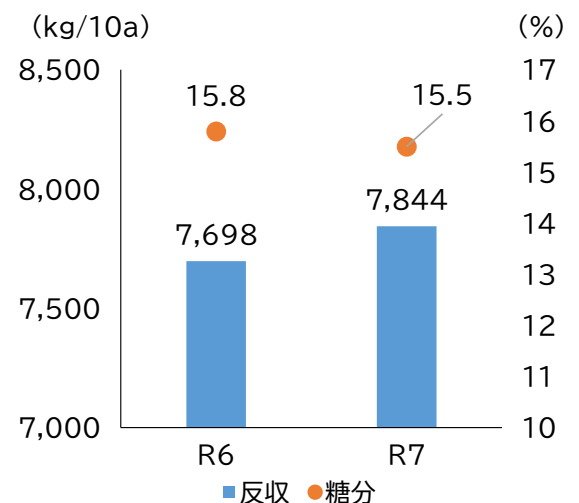


図1 反収と糖分の差(R6～7)

## 今後の方策・考え方

- 有機質肥料の割合を増加させ、さらなるコスト削減と所得率向上を図りたい。
- 他作物でも効果を確認したい。